

令和 2 年度第 2 回
岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和 3 年 3 月 16 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 30
会場	岡崎市こども発達センター体育館棟 1 階 研修室
出席者	早川文雄、日比野雅彦、安達友隆 (水野智之代理)、花田直樹、外山克之、野崎敬子、平岩ふみよ、本田康英、塩谷典子、神谷敦仁
欠席者	水野智之、大賀肇、丸山健
事務局	こども部長 (柴田伸司) 保健部健康増進課 : 坂田勝彦、鈴木理香 福祉部障がい福祉課 : 鈴木ますみ こども部保育課 : 河合剛志 こども発達支援センター : 山田由紀子 こども発達医療センター : 中村みほ こども発達相談センター : 杉浦基司、山内元彰、山本真由美、山口宗佐、小林広美、林尚子、松野俊次、武田正道、都築和夫、清水裕介
議題	1. 検討結果報告 令和 3 年度岡崎市早期支援システムについて 岡崎市早期支援システムの評価指標の見直しについて 岡崎市の子育て期の発達支援情報 令和 3 年度こども発達相談センター年間業務・行事予定表 (案) 2. 令和 3 年度の会議および部会での検討事項 早期支援システム検討部会 (案) 就園後支援体制検討部会 (案) 就学後支援体制検討部会 (案) 3. その他 令和 3 年度の会議開催予定 第 1 回 令和 3 年 7 月 20 日 (火) 14 : 00 ~ 第 2 回 令和 4 年 2 月 1 日 (火) 14 : 00 ~
内容	議題 1 : 検討結果報告 令和 3 年度岡崎市早期支援システムについて 【杉浦所長】: 次年度から開始のシステムとなるが、次の議題の評価指標も含め、今回の説明が最終となるのでご意見等あればいただきたい。 【山本係長】: 資料 1 ~ 1 - 2、説明。(説明資料 参照) 【きらら野崎氏】: 2 歳児健診 (レインボーの会) について、具体的にどのようなことをされるのか、教えていただきたい。 【健康増進課鈴木係長】: レインボーの会は、2 歳の段階で 1.6 歳児健診後の発達面

の伸びを確認する会となっている。基本的には1.6歳児の課題+ を行って、2歳相当の伸びがあるかを確認する会となっている。

【早川センター長】:発達センターは基本的には知的障害がない軽度のお子さんを対象としているという前提がある。1-1のフロー図も1.6歳児健診で要観察となったお子さんを中心としている。要精検、要医療などの障がい認められるお子さんについては、市民病院で検査して青い鳥でお世話になる、という流れになっている。1.6歳健診で要観察となったお子さんを主に対象とし、2歳時に再確認する場となっている。

【幼稚園平岩氏】:フロー で就園期にあたるお子さんについて、どのぐらいの人数がどういうところに就園していつているか知りたい。ここ数年は非常にたくさんの入園希望児がいた。私立幼稚園としては定員ももちろんあるが、療育的な部分も含めた幼児教育の場を提供できるよう検討していくのが役割だと思っている。インクルーシブの考えで受け入れていくのが基本でなくてはいけないと思うが、まだまだ浸透していない。現実的には若い先生たちが苦労している。岡崎全体の中で、どのぐらいの割合の子がフォローされて、どのぐらいの子が地域に就園するのか知りたい。

【山本係長】:私立幼稚園からは人員配置の問題もある...というご意見はいただくことがあるが、具体的に人数となると、支援センターのわかばも希望者全員が入れるわけではない。わかばからもれた子はほとんどが公私立保育園やこども園に行っているが、私立幼稚園に行く子ももちろんいる。当センターとしてできることとしては、にこにこきっず2の拡充も含めて、就園前の準備期の段階できちんと支援を届けること、就園後に困っている子については訪問支援等の活用を今後も啓発し続けたい。

【早川センター長】:人数としてはどのぐらいの子が私立幼稚園に来ているのか。

【山本係長】:わかばを希望したのに入れなかった子で幼稚園に行った子は令和元年度は5名、来年度は1名。年によってばらつきはある。

【早川センター長】フロー でみると1.6歳児健診で要観察となる子が毎年7~800人。レインボーの会を経てにこにこきっず1にくる子が2~300人。その後、にこにこきっず2や親子療育等に絞られていく。その後、就園相談等で適切なところを助言していくと思うが、それが数名ということか。

【山本係長】:要観察のお子さんはもっとたくさんいる。今伝えたのはわかばを希望したのに入れなかったお子さんとなる。にこにこきっず等、そのほかを経由して就園したお子さんについては、把握しきれていない。今後は把握していく必要があると感じている。

【事業団外山氏】:資料1-2のフロー について3点質問したい。1点目は、事業団が支援センターの指定を受けているが、並行療育は支援センターではなく近くにあるすだちで行っているがこの欄にあっているか。

2点目は、並行療育という用語について、保護者には並行通園と伝えているがこの表記でいいか。

3点目は、ここサポについて、一般的な情報提供から専門的な相談支援までやることになると思うが、専門的な相談支援とはどのようなことを想定しているか。

【山本係長】1点目は、すだちは支援センターではないので、並行療育はこの欄から除くかカッコ書きにする。2点目は、保護者に合わせて並行通園に統一する。3点目についてですが、ここサポは家庭児童課と子ども育成課、保育課が入る。家庭児童課はこれまでは虐待対応やこんにちは赤ちゃん事業などをやっていたが、そこにこども家庭総合支援拠点の機能が追加され、保健所からも職員が異動して切れ目のない支援を目指す。総合子育て支援センターの機能もここサポに移る予定。主管課である子ども育成課は手当等を実施するが、1階になる。こどもに関する機能が集約されることになる。

【こども部長】: 今も配置されているが、専門的な相談に対応するため、心理士や社会福祉士、保健師、保育士等の専門職が配置されて相談にあたる。また、母子健康手帳が保健所から市役所に移ることになる。

【中村所長】: 事務局側の立場だが、資料の訂正をお願いしたい。早期支援システムのフローの作成にあたっては、医療センターはその他の医療機関と同様で、相談センターを中心に作っていただいたものに対して、協力を依頼される立場となっている。資料1-2のフローの医療センターの部分だが、当センターは元々就学前のお子さんに対して対応する計画となっていたため、現時点では就学前までが医療センターの責任範囲だと考えているが、フロー図の緑の枠が6歳の線を越えている。就学期については、相談センターの教育相談の力も借りて、適切に学校につなげるように努めている。就学してから医療センターを受診する可能性としては、医療センターを卒業後に発達協力医の先生にフォローをお願いしたケースで、就学後に困った問題があって、医療センターを再受診することでお手伝いできることがあれば、先生がたから改めて戻していただくルートを作っている。このルートが就学後に医療センターを受診するほぼ唯一のルートとなっている。また、そういったケースも継続してみることは難しいため、協力医の先生がたと相談して、場合によってはより専門的な精神科へのご案内等の対応もとっている。

【早川センター長】フロー図については、事務局で修正をお願いします。ほかにもご意見等あるかと思いますが、のちほどの総合討論でお願いいたします。

岡崎市早期支援システムの評価指標の見直しについて

【山本係長】2-1、2-2、2-3参照。本来は相談 医療 支援の並びなので、次年度以降は順番変更するが、今年度は配布資料の順番でご説明させていただく。この指標は従来から変更し、それぞれのセンターごとに目標を立て、その目標に対する指標としている。また指標項目も具体的な数値を目標とし、項目数もかなり減らしている。項目は基本統計と指標項目となっている。指標項目は「数値の表す意味が明確であること」「増減が目標に向かっていくことを示していること」の両方を満たすよう設定している。統計的なデータについては基本統計に入れるようにしている。これまで重なっていた項目もあるので、整理した。

【杉浦所長】項目内の「目標（方向性）」は現在 100%と入力されているものが多いが、最初から 100%を目指すものではなく、近づいていくことが望ましい、ということを示している。目標については、毎年設定していく予定。これまでの指標は指標ではなく単なる数字の羅列（統計）となっていた。今後は発達センターがこうなるといいのでは、ということを実現化するための数字をあげた。

【きらら野崎氏】：医療センターで ST や OT を受けているお子さんも多いと思うが、6 か月経過後に別の医療機関を紹介することもあると思う。その数も指標で出してもらえるとありがたい。そのような数値も項目で見えたと、医療センターと他病院のつながりもはっきりしてくるのでは。

【中村所長】：申し訳ないが、今すぐには数値は出せない。ご要望があったことを受け止め検討するという返答になってしまう。紹介状全体の数はすぐにだせるが、それぞれの病院あての数については、手計算になるので…。善処させていただきたい。

岡崎市の子育て期の発達支援情報

【小林】：資料 3 説明。

【きらら野崎】：裏面の左上のレインボーの会の記載場所は 1.6 歳児健診の横に併記してあるが、同じ意味ではないと思うので 2 列にしたほうがよいのではないかと。

【山本係長】：レインボーは段落変更し 2 列とする。カッコ内の 1.6 歳児再健診の表記についても健康増進課と相談しながらわかりやすい表記に変更していく。

【事業団外山氏】：表面のピンク色の部分だが、上部は「児童通所支援（療育）」となっており、中断あたりの療育に該当する部分だと思うが、その中のサービス部分の表記は「児童発達支援」となっており、3 つ言葉があって一般的にはわかりにくい。表記を統一するなどして解決できるとよいが。

【山本係長】：表記を整理させていただく。

【中村所長】：療育という言葉は利用者にはわかりにくいのでは。医療センターで実施しているのが療育ではない、と思われてしまうのも困る。「各種個別リハビリ」と表記されている部分を「個別療育」や「集団療育」という表記にさせていただきたい。児童通所支援の施設が実施しているのも、医療機関が実施しているのも療育だということになりやすくなっているといい。

【山本係長】：障がい福祉課とも相談しながら、保護者にとってわかりやすい表記にしていく。

令和 3 年度こども発達相談センター年間業務・行事予定表（案）

【山内係長】：資料 4 説明。ここにこきっず 1 は健康増進課が実施主体となるので、療育的支援事業ではなく 1.6 歳児健診事後教室となる。修正させていただく予定。

議題 2：令和 3 年度の会議および部会での検討事項

早期支援システム検討部会（案）

【小林】：資料 5 説明。

就園後支援体制検討部会（案）

【林】：資料 6 説明。

就学後支援体制検討部会（案）

【武田】：資料 7 説明。「個別の支援計画」の表記を「サポート情報」に変更。

【教育委員会神谷氏】：今年度しっかりとできなかった部分もあるので、きちんと連携していきたい。少し戻るが資料 4 の予定表だが、就学後支援体制検討部会の欄に 5 月、9 月、1 月の検討部会と記載されているが、これは資料 7 の全 3 回がこれにあたるということで間違いないか。

【小児科医会花田氏】：センターができて 4 年経って、成熟してきているいろいろなことができるようになってきたと感じる。今後はこども発達センターを利用した後の評価等も、現場の小児科医としては知りたい。今後周知していただくとありがたい。

【早川センター長】：相談センターの目標にも明記しているが、今後は情報共有が大切。また、縦方向のこういった経過を辿っていくかということの評価していくことも大切。関係機関の皆様には今後ともご協力をお願いしたい。

議題 3：その他

【早川センター長】：委員の方に一言ずついただきたい

【青い鳥安達氏】：代理出席だが、とても勉強になった。今後もよろしく願いしたい。

【小児科医会花田氏】：30 年前の開業当時はこのようなことを議論できる場はなかった。とても素晴らしいことだと思う。センターを通過した子がどのように就学していくのか、今後も情報をいただければと思う。

【事業団外山氏】：事業団としては 4 月から第二期指定管理が始まる。より多く利用していただけるよう努めていく。発達支援センター内に相談支援事業所があるが、これまではセンター利用者のみが対象だったが、今後はそれに限らず利用できるようになる。相談支援事業を通じて今後は情報提供していきたい。

【きらら野崎氏】：民間として唯一の参加となるが、ここ最近感じることとしては、並行通園の利用児が増えている。それだけ大変なお子さんが増えていることだとも思う。今後できるだけ、やれるだけのことをしていきたい。

【教育委員会神谷氏】：資料作成について、事務局に感謝したい。今後学校教育を担う立場として、よりよい教育を実施するために、その前段階のこのような資料をきちんと頭にいれて取り組んでいきたい。

【西三河児相塩谷氏】：療育手帳の判定をしているが、ここ 2～3 年で軽度の知的障害で非該当となる児が増えている（県では IQ75 以下が療育手帳の対象）。周囲に言われたから申請したのに非該当なんですね、と残念がる保護者も多い。福祉サービスを提供する立場として、今後もこのようなシステムの充実や成熟と、保護者のかたの思いが、足並みが揃っていくと素晴らしいと思う。

【保育園本田氏】：支援システムの充実を感じる。保育園は発達の基礎の大切な時期。療育もとても大切な時間。保育者自身のスキルも今後重要になっていくので、大きな課題だと思う。

	<p>【幼稚園平岩氏】: ここ数年で支援システムもしっかりして充実してきた印象。これを成熟させていくことが大切。私たちもいろいろなノウハウを学んできた。最近はいんクルーシブなど言葉を先に学ぶが、理解がされないまま資格を取って現場に出てくる。そうすると、困った子という言葉がでてきてしまうが、困っているのはその子でありその保護者。並行通園等も、個と個のつながりが必要。支援システムの中で少しでも連携していけるといいと思う。</p> <p>【日比野氏】: 4年間の成果がでていると思う。新しい支援システムが機能するように祈念している。</p> <p>【杉浦所長】: 貴重なご意見をたくさんいただいたので、今後も参考に事務にあたっていきたい。指標を参考にしながら取り組んでいきたい。また指標で図れない部分もどのように充実させていくか、考えていくことが大切なため、今後も皆様のご協力をお願いしたい。</p>
<p>事務局 連絡</p>	<p>【杉浦所長】 令和3年度の会議予定は令和3年7月20日(火)、令和4年2月1日(火)</p>